

新しい美浜の学校づくり通信

Vol.

01

「新しい美浜の学校教育検討委員会」
が始まりました！

現在、美浜町では、新しい学校教育のあり方や、小中一貫教育学校の整備に向けて検討を進めています。その議論の場として「新しい美浜の学校教育検討委員会」を開催し、保護者や地域、学校関係者、有識者などが集まり、美浜町らしい学びや学校のあり方について話し合っています。

本号では、第1回・第2回検討委員会の内容をご報告します。

今後も「新しい美浜の学校づくり通信」として検討の状況を随時お知らせしていきますので、ぜひご覧ください。

★第1回・第2回検討委員会の開催概要

第1回開催概要

〈日時〉2026年2月24日（火）

19:00～21:00

〈場所〉美浜町役場 2階会議室

〈出席委員〉26名

第2回開催概要

〈日時〉2026年3月18日（水）

19:00～21:00

〈場所〉美浜町役場 2階会議室

〈出席委員〉25名

【主な内容】

1. 委嘱状の交付
2. 新しい美浜の学校教育検討委員会について
3. 委員長及び副委員長の選出について
4. 委員自己紹介
5. 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について
6. 小中一教育に関する制度説明について
7. 今後の検討スケジュールについて
8. その他



【主な内容】

1. 前回のふりかえり
2. 勉強会
 - ①「小中一貫教育の展開とその成果および課題」
・質疑応答
 - ②「学校づくりはまちづくり
ーみんなで創る美浜の未来ー」
・質疑応答
3. その他

裏面に主な内容を
まとめています！



★直近のスケジュール

- 【第3回検討委員会】5/12（火）
・先進事例視察
（加東市立 東条学園(兵庫県)）

視察の概要は、
次々回の通信にて
お知らせします！



検討委員会の
開催状況は、
こちらから
随時更新して
お知らせします！





『小中一貫教育の展開とその成果および課題』

1. 小中一貫教育の基本的な考え方

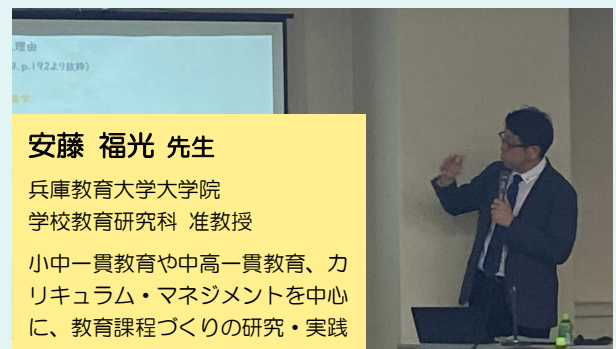
- ・小中一貫教育は全国一律の形ではなく、学力向上や中1ギャップの緩和、少子化への対応など、地域課題に応じて導入のねらいが異なります。特に、少子化が進む中では、異学年のつながりの中で社会性を育てる視点も重要になります。
- ・制度の形よりも、地域の実情に応じて9年間の学びと育ちをどうつなぐかが重要です。

3. 小中一貫教育の成果と課題

- ・学習意欲や授業理解の向上、中学校進学への不安軽減、異学年交流による思いやりの醸成などが成果として期待されます。加えて、学校生活への満足度の向上や学習習慣の定着、小中の教員連携の深まりなども効果として挙げられます。
- ・一方で、9年間を通した指導計画づくりや教員の連携時間の確保、負担軽減、施設面の工夫などが課題となります。あわせて、何を9年間でつなぐのかを明確にし、小中一貫教育の重点を共有することも重要です。

2. 小中一貫教育の実践事例

- ・合同授業や異学年交流などを通じて、子ども同士の関わりや上級生・下級生それぞれの成長を促す取組が進められています。下級生にとっては上級生が身近な目標となり、上級生にとっては責任感や自覚を育む機会にもなります。
- ・あわせて、教員間の連携や教科担任制などにより、9年間を見通した教育環境づくりが行われています。また、小学校段階の学びを中学校でどう引き継ぐかを共有し、継続的に見直ししながら実践を重ねることも重視されています。



安藤 福光 先生

兵庫教育大学大学院
学校教育研究科 准教授

小中一貫教育や中高一貫教育、カリキュラム・マネジメントを中心に、教育課程づくりの研究・実践

『学校づくりはまちづくり —みんなで創る美浜の未来—』

1. 学校づくりをまちづくりとして考える

- ・学校づくりは校舎整備にとどまらず、美浜町の将来像や地域資源を踏まえた、地域の拠点づくりとして考える必要があります。海や山、海岸、松林といった美浜町ならではの環境を生かし、長く地域を支える場とすることが重要です。
- ・そのためには、行政だけでなく住民、保護者、教職員、専門家、子どもたちも含めて学校像を共有しながら進めることが重要です。

3. 学校と地域の新しい関係

- ・学校は地域の拠点として、地域との連携や住民が関われる場づくりを通じ、地域全体で子どもを支える仕組みをつくるのが重要です。学校の中に地域の人々が自然に関われる場を設け、学校と地域が日常的につながる関係を築くことが大切です。
- ・義務感ではなく主体的な関わりを大切にしながら、美浜町らしい学校像を地域の思いとともに形にしていくことが重要です。多くの選択肢がある中で、美浜町として何を大事にするのかを明確にし、その思いを込めることが大切です。

2. 従来の学校観を見直すこと

- ・これまでの学校の形や学び方を問い直し、多様な学びに対応できる空間や設備、屋外空間の活用など柔軟な環境づくりが求められます。従来の教室配置や学習空間の前提を見直し、子どもが意欲を持って学べる環境を再構築することが重要です。
- ・あわせて、子どもだけでなく教職員にとっても過ごしやすく働きやすい環境を整え、小中一貫の働き方を丁寧に考える必要があります。小学校と中学校の教職員が一緒に働く上での課題も整理し、意見を反映しながら考えていくことが重要です。



鈴木 賢一 先生

名古屋市立大学 芸術工学研究科
建築都市領域 特任教授

学校建築を中心に、教育施設計画や利用者参加型の空間づくりの研究・実践